表情写真に対する笑顔表出における練習の効果

○伊藤舞¹・千秋紀子²・森本文人²・大森慈子²

(¹仁愛大学大学院人間学研究科・²仁愛大学人間学部)

キーワード：笑顔，表情表出，練習

The effect of practice on the facial expressions of smiling.

Mai ITO¹, Noriko CHIAKI², Fumihito MORIMOTO² and Yasuko OMORI²

(¹Graduate School of Human Studies, Jin-ai University, ²Faculty of Human Studies, Jin-ai University)

Key Words: smile, facial expression, practice

目 的

笑顔は、相手に対して肯定的な印象を与えるため、意識して作られることの多い表情である。作り笑いは、左右非対称的で左側の動きが大きく、さらに自然な笑いに比べて、表出時間が短くて表情の動きが速い。一方、主に他者に対して向けられるものといえる笑顔は、相手の表情からも影響を受ける。

本研究の目的は、表情写真に対する笑顔の表出について、笑顔の練習による効果を検討することであった。

方 法

被験者：大学生 24 名(男性 12 名, 女性 12 名), 平均年齢は 19.5 歳(範囲 18-25 歳)であった。

実験刺激：JACFEE と JACNeuF(Matsumoto & Ekman, 1988)から選出された表情写真 16 枚で、笑い表情刺激と中性表情刺激が 8 枚ずつあった。それぞれ米国人と日本人の男女各 2 名、計 16 名の写真で構成されていた。

実験条件：PC ソフトを用いて笑顔の練習をする笑顔練習条件と、リラックス映像を視聴る映像鑑賞条件の 2 条件を設定した。

記録指標：被験者の表情を隠蔽カメラによって記録した。

実験手続き：笑顔の練習もしくは映像鑑賞後、20 型のテレビ画面に 10s 間呈示された写真を見ながら笑顔をする課題が行われた。これを 1 試行として、8 試行を連続して実施した。休憩をはさみ、映像鑑賞もしくは笑顔の練習後、別の刺激セットで 8 試行が繰り返された。条件と刺激セット、刺激呈示の順序および組み合わせは、被験者ごとに異なっていた。

結 果

Figure1 に、笑顔表出が最大になるまでの平均時間を示した。条件(2)×刺激(2)×性別(2)の分散分析を行ったところ、性別の主効果があつた($F(1, 18)=5.11$, $p<.05$)。条件と刺激と性別の交互作用がみられた($F(1, 18)=4.82$, $p<.05$)。LSD 検定の結果($p<.05$)、映像鑑賞条件の笑い表情刺激および笑顔練習条件の中性表情刺激において、男性と女性の間に有意な差が認められた。つまり、女性は男性よりも笑顔表出が最大になるまでの時間が長く、特に映像鑑賞後の笑い表情刺激および笑顔練習後の中性表情刺激に対する笑顔において、差が顕著であった。

Figure2 に、目尻から口角までの長さの平均左右差を示した。値が正の場合は顔の左側の動き、負の場合は右側の動きが大きかったことを表している。条件(2)×刺激(2)×性別(2)の分散分析を行ったところ、条件と刺激の交互作用があつた($F(1, 18)=5.80$, $p<.05$)。刺激と性別の交互作用がみられた($F(1, 18)=7.61$, $p<.05$)。LSD 検定の結果($p<.05$)、男性の笑い表情刺激と中性表情刺激の間の差が有意であった。中性表情刺激の男性と女性の間に有意な差があつた。笑い表情刺激の笑顔練習条件と映像鑑賞条件の間の差が有意であった。映像鑑賞条件の笑い表情刺激と中性表情刺激の間に有意な差が認められた。つまり、男性は笑い表情刺激よりも中性表情刺激に対する笑顔で、顔の左側の動きが大きくなった。中性表情刺激に対する笑顔は、男性は左側、女性は右側の動きがより大きかった。笑い表情刺激に対する笑顔では、笑顔練習後よりも映

Figure1. 笑顔表出が最大になるまでの平均時間。

Figure2. 目尻から口角までの長さの平均左右差。

像鑑賞後の方が左右差が大きくなった。映像鑑賞後は、笑い表情刺激よりも中性表情刺激に対する笑顔で左側の動きが大きかった。

考 察

笑顔表出が最大になるまでの時間は、笑顔の練習後の無表情写真に対する笑顔において、男性よりも女性の方が長くなった。また、笑顔による目尻から口角までの動きは、無表情写真に対して笑うとき、男性は左側、女性は右側の動きがより大きかった。つまり、笑顔の練習により、女性は無表情写真に対して自然に笑えるようになったといえる。しかし、男性は笑顔が苦手であり、無表情写真に対する笑顔において、作り笑いの特徴である顔の左側の動きが大きくなったといえる。

以上、本研究により、笑顔の練習および写真における表情の違いが、笑顔に与える影響について示された。

引用文献

Matsumoto, D. & Ekman, P. (1988). *Japanese and Caucasian Facial Expressions of Emotion (JACFEE) and Neutral Faces (JACNeuF)*. [Slides]. Interactional and Emotion Research Laboratory, Department of Psychology, San Francisco State University